

研修トレーナーの1Patient体験記⑦

こんにちは。製薬企業向けのトレーニングを担当している、Nです。

「1Patient」を研修ツールとしてどのように有効活用するか、日々考えています。

トレーニングの材料を探すのには、骨が折れますよね。どうしても、新鮮味に欠ける内容を、細部を修正・変更しながら、繰り返し実施せざるを得ないことがあります。

もちろん、繰り返し行うことは知識を確かにする上では、絶対に必要です。とはいえ、というところですが。MR研修テキストに書いてあるレベルのトレーニングを進めることは、必要なものであるけれども、各企業の要求レベルを満たさない可能性があります。また、各疾患の治療ガイドラインを基にしたトレーニングも、それ自体を理解すれば、その先は新しい知見・経験が重ねられ、次の改訂までは、企業毎に収集した情報を基にトレーニングすることになるでしょう。

MRにとっての日常、すなわち先生方からの情報を集め、それを情報源とする活動の中でも、その基盤になるのは日頃のトレーニングです。興味を持って参加したり、学習したりする環境を整えたいですね。

1Patientを活用する場面は、このトレーニングの材料を選択する時かもしれません。

まずは、検索画面から学習をしていきたい疾患・病名で検索すると、多くの症例が一覧になって表示されます。一覧表示では、症例のID、年代、性別が表示され、あわせて各症例が罹患されている基本情報も見ることができます。

1Patientをトレーニングで使用するにあたって、最初はこの基本情報を参照して、できるだけ単純な症例、あるいは各企業と関連する注目すべき症状を含む症例から、選択いただきたいと思います。意図としては、基本から応用への学習の流れを作ることです。

トレーニングを準備する際、この症例選択が一番難しいと思いますが、1Patient導入当初はトレーナーが適した症例を選択する必要があります。

一覧から症例を選択しIDの列をクリックすると、さらにカルテの詳細が表示されます。画面左側には選択した症例の病名、医師所見として患者との間で理解した環境要因、処置内容、投薬状況や治療方針などが記載され、経過を追ってみることができます。複数の症例を比較してみると、症例間の共通点、または特異な点が見えてきます。一方、医師の注目点についても共通なもの、その医師特有なものがあります。

次回も引き続き1patientの記載内容から活用方法を探りたいと考えています。

トレーナーNの略歴

『まもなく五十路を迎える男性トレーナー。製薬企業における人材育成・研修担当として20年以上、MRの育成にかかわる。MR・マネジャーの成長が何よりの喜び。』